

仏教勉強会のご案内

「仏教に興味がある」「写経や写仏をやってみたい」「大松院にお参りしてみたい」という方はどうぞお気軽にご参加ください。

◇場所 大松院

さいたま市浦和区東高砂町19-4

◇日時 月1回 日曜日 午前10時半〜12時

◇問合わせ先 大松院 担当 小林智観

☎048-882-9205

2月8日「お釈迦様の言葉を読む」

3月8日「お釈迦様の言葉を読む」

4月5日「写仏」

5月10日「お釈迦様の言葉を読む」

6月7日「お釈迦様の言葉を読む」

※個別の写経、写仏も随時受け付けております。ご希望の方は、大松院までご連絡ください。
※初めてご参加される方は、右記問い合わせ先の電話番号までご連絡ください。



副住職の修行体験記

去る11月16日にベトナム タムチュック寺院において、第2回 柴灯大護摩供（火渡り修行）のお勤めに出仕して参りました。昨年、初めてお勤めさせていただき、おかげさまで、ぜひ今年もというお声を頂き、仲間の僧侶7名でお勤め致しました。いわゆる修験道の法要として、お勤めするわけですが、「山伏」と言ったほうが少し分かりやすいかもしれません。山伏は山岳に分け入って修行します。山に伏して修行するので山伏と言います。そして山の修行が終わると里に降りて来て、皆様の諸願成就をお祈りする法要を行うのが常であります。山を含めた自然そのものが、仏さまそのものであり、そこに身を投じることによって、自分自身が仏であると自覚することがその根本の考えなのです。今回は、現地の寺院の興隆と参列者の皆様の安寧を祈願して行われました。ベトナムは、仏教国であり、特に阿弥陀さまの信仰が強くあります。本来、火渡り修行の時は、火から護ってもらえるように水天のご真言をお唱えして火渡りをしますが、今回は現地の方々の信仰に基づいて「南無阿弥陀仏」に相当する言葉の「ナムアジダファット」をお唱えしながら渡って頂きました。各々が体験を通して、益々心の安寧を得て日々を元気に過ごしていただければと願うばかりです。詳しくは、どうぞ遠慮なくお声掛け下さい、お話を致します。今回もありがとうございました。

合掌

令和8年行事予定

○節分追儼式（豆まき式）
1月25日（日） 14時
○合同慰霊祭
7月13日（月） 11時
8月13日（木） 11時
○送り火の夕べ
8月15日（土） 17時半

令和8年回忌表

1周忌	令和7年
3回忌	令和6年
7回忌	令和2年
13回忌	平成26年
17回忌	平成22年
23回忌	平成16年
27回忌	平成12年
33回忌	平成6年
50回忌	昭和52年

※お詫び 発行ナンバーが前回間違えておりました。前回32号、今回は33号になります。保管されているご家庭は、訂正頂きたく存じます。

合掌



↑浦和霊園公式HP



↑大松院Facebookページ



浦和霊園だより

VOL. 33

令和7年12月号

TEL 048-812-1121

FAX 048-878-7272

編集者

副住職 三浦清志

ご挨拶



おおまつしんじ 大松院住職

小林智観

師走の寒さが身にしみ、冬の気配がくつきりと感じられる季節となりました。皆さまには本年も変わらずお支えをいただき、このように無事に年の瀬を迎えられますこと、心より御礼申し上げます。

さて先日、姉からクラシックコンサートのチケットを譲り受け、母と連れ立って久しぶりにホールへ足を運ぶ機会がありました。普段、日常の中でクラシック音楽に触れることはあっても、聴くのは録音された音源がほとんどで、生演奏の場に身を置くことは滅多にありません。コンサートホールに響く音の広がり、楽器の音色の微妙な揺らぎ、奏者たちの息づかいまでも感じられる緊張感…録音では決して味わうことのできない奥深い感動がありました。そうした演奏を支えるのは、奏者一人ひとりが日々積み重ねている鍛錬です。しかし、オーケストラの音楽の素晴らしさは、その「個の努力」が単に重なるだけでは生まれません。全員が互いの音を聴き、

寄り添い、支え合うことで、はじめて壮大なハーモニーが生まれます。個々の音が調和することによって引き出される力の大きさに、胸が熱くなるほどでした。

音楽を通して、私は「調和とは、それぞれが自らの音を大切にしつつ、同時に他者を尊重し、響き合うことなのだ」と深く感じました。この体験は、私たち僧侶のお勤めにも重なります。読経の場では、師匠から「周りの音をよく聞け」と繰り返し教わります。本山の朝のお勤めでは、数十人の僧侶が堂内に集まり声を合わせますが、読経の速さや音の高さがずれてしまうと、全体の調子が乱れてしまうのです。周りの僧侶の声の高さやペースに耳を澄ませ、自分の声を重ねていくと、自然と呼吸が揃い、読経全体がひとつの大きな響きとなって堂内を満たします。音が調和すると、不思議と心も調和していきます。言葉を越えて、仏さまのお力が場全体に満ちるような、そんな感覚になります。

昨今、熊の出没が全国的に問題となっているというニュースが報じられています。これも自然と人間との調和の乱れが引き起こした問題といえるでしょう。専門家によれば、熊が人里に現れる背景には、山の実りの不足、気候変動、森林の手入れ不足、さらには人間の生活圏の拡大など、さまざまな要因が複雑に重なっているといえます。単純に「熊が悪い」「人が悪い」と言えるものではなく、自然との調和

がどこかで乱れ、その結果として表れている現象なのだと感じます。

仏教では、すべての存在は互いに支え合い、関わり合いながら成り立つと説きます。それは、人と人だけでなく、人と自然との関係にもあてはまります。「自分だけ」「人間だけ」という考えでは、調和は生まれません。オーケストラの音が一つの響きを生むように、読経の音が寄り添いあうように、自然界との関係もまた『響き合う』心が必要なのです。

私たちの日常生活でも、小さな調和の乱れが心の不安や人間関係の摩擦につながることもあります。家族や職場、地域社会の中で、互いの声を聴けなくなるとき、そこには調和を見失いがちな自分の姿があるかもしれません。相手の声にそっと耳を傾けてみる、「自分が」という視点から一歩外に出て、全体を俯瞰してみる。ほんの小さな心がけで、関係の風通しが良くなる可能性があります。

年末の慌ただしさの中ではありませんが、この一年の歩みを振り返りつつ、どうか皆さまそれぞれに「調和」の視点を大切にしながら、新しい年をお迎えいただければと思います。新しい年が、皆さまにとって穏やかな響きに満ちた一年となりますよう、仏さまの御前から心よりお祈り申し上げます。合掌



十三仏について ⑧

十三仏とは、初七日忌から三十三回忌までの間、故人を守護し、お導きくださる仏様です。故人は各回忌ごとに配された十三の仏様の功德をいただきながら、最終的には仏様となって子孫を守ると考えられています。その十三仏についてシリーズでお話させていただきます。



霊園の十三仏

【百か日忌 観音菩薩】

今回は、百か日忌の御本尊 観音菩薩です。観音菩薩は、「観世音菩薩」や「観自在菩薩」と呼ばれています。「観世音」とは、世の中の状態や人々の声を聞き、たちどころに苦しみや悩みを救い、私たちを取り巻いている悪事災難を除くことをご誓願にしていることを表しています。また、「妙法蓮華経普門品第二十五」いわゆる「観音経」には、三十三の姿に、そのみ姿を変化させ、自由自在に時と場所を選ばず出現されて救済活動をされると考えられています。



観音菩薩

から「観自在」と言います。いずれにしても、観音様は「慈悲」の仏さまであり、私たちの悩み苦しみを取り除き、寄り添って、樂を与えて下さる存在です。馬頭観音、准胝観音、白衣観音、十一面観音、如意輪観音、千手観音など様々な観音さまがいらつしやいますが、大松院本院の観音さまは「聖観音」です。ご真言（仏さまの梵語でのお名前）は、「オン アロリキヤ ソワカ」です。オンは、信仰していきまます、礼拝しますの意で、アロリキヤは、無染無着とのことで、泥中から蓮華が咲くように世の中を清浄にするという意味になります。ソワカは願いの成就を祈る特別な言葉になります。観音様をお参りする際は、ぜひお唱えして頂きたいと存じます。また、ご真言を覚えるのが大変な方は「南無大慈大悲観世音菩薩」とお唱えいただければ、観音さまへのお気持ちを通じ、お守りいただけることと存じます。

（次回 一周忌 勢至菩薩へ続く）

三浦清志 記



合同慰霊祭



送り火の夕べ

「合同慰霊祭・送り火の夕べ」報告

毎年 皆様と一緒にお盆の供養として『合同慰霊祭』と、『送り火の夕べ』を開催いたしております。今年も大勢の方のお参りをいただきました。ご参加いただいた皆様には、大変お世話になりました。合同慰霊祭は、お盆を迎えるにあたり、新盆の仏さまや、ご供養されたい精霊のお位牌をお持ちいただいて、盆供養として行っている法要です。7月13日と8月13日に行っております。また、送り火の夕べは、開園以来、ご先祖様が仏さまの世界にお戻りになるのを皆様と一緒に見送りしている浦和霊園独自の行事です。お焚き上げの火は、今年に関しては特に面白い火の形で燃え上がり、私自身とても驚き、感激致しました。来年も皆様のお参りをお待ちしております。

節分追儺式のご案内

恒例となっております新年の節分追儺式（豆まき式）を開催いたします。暦ではいわゆる立春から本当の新年が始まるとされています。霊園では、毎年本来の節分の前に、豆まきを皆さんと一緒に盛大に行って、厄払い・開運をお祈りさせていただいております。たくさん豆を持ち帰っていただき、ぜひご家庭でも賑やかに豆まきを行っていただきたいと思います。お申し込みは、この霊園だよりに同封いたしました別紙の申込用紙にて管理事務所までお申し込みください。大勢の方のご参加をお待ち申し上げます。

- ◇とき 令和八年一月二十五日（日）午後2時より
- ◇ところ 浦和霊園礼拝堂（管理事務所二階）
- ◇参加費 金三千円（一家族当たり）
- ◇申込方法 別紙申込書に必要事項を記入して、管理事務所までお申し込みください。



皆さまのお越しをお待ちしております

ご詠歌で健康に！仲間募集中！

ご先祖様の供養ために、また、ご自身の信仰を深めるために、ご詠歌をお唱えしてみませんか？ 声を出すことは、のどが鍛えられ、肺活量が増えます。ひとつの健康法になることでしよう。現在、月に一度 本院 大松院にて練習会をしています。ご希望の方があれば、霊園でも開催したいと考えています。ご興味のある方は、一度聞くだけでも結構です。お気軽にお問い合わせください。

◇問い合わせ先 管理事務所
担当 三浦清志



暮らしの中の仏教用語

「引導」（いんどう）



現代では「引導を渡す」という使い方をします。最後通告をするとか、最終的な宣言をするといった意味で使われています。元来は誘引開導（ゆういんかいどう）ということでした。つまり人々を仏道に引き入れ、導く意味でした。葬儀に於いて僧侶は誦誦文（じゆんもん）を唱えて、亡者に仏縁（ぶつえん）を結ばせるところから「引導を渡す」といった表現で使われることもあります。また、引導は亡者に向かつて唱える法語のことを指し、そこから葬儀の際に法語をお唱えする僧侶を導師と呼ぶようになりました。葬儀の内容を鑑みると法語と言うよりはやはり、衆生の迷いをすくい、仏道に引き導くことを意味する方がしっくり来ると思います。

管理事務所よりお知らせ

【営業時間・休館日のご案内】

◎管理事務所定休日について

令和8年4月1日より、毎週火曜日を定休日とすることいたします。年末年始、お盆、お彼岸など繁忙期は休館致しません。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

◎年末年始の営業時間

令和7年12月29日（月）から
令和8年1月4日（日）までの7日間
開館時間・午前10時～午後3時まで
※毎年の年末の休館日は廃止致しました。

◎臨時休館日 令和8年2月8日（日）

※さいたまスーパーマラソン開催につき、8時半頃～14時頃まで霊園に入る国道四六三号線が閉鎖されます。お車・バスをご利用される方はご注意ください。※管理事務所が閉まっている場合、お線香の購入、ハサミの貸出・お手洗い・自動販売機のご利用が出来ません。お墓参りは随時可能です。冬季は日照時間が短いため、明るい時間のご来園をお勧めしております。

【ライター貸し出し終了のお知らせ】

この夏、屋外に放置されたライターが暴発する事案があり、ライターの貸出を終了致しました。ご自身でお持ちいただくか、管理棟内設置のガスコンロをご利用下さい。